

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成29年2月3日(金)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	吾妻 美紀子

実施概要	実施活動名	ふようまつり
	実施日時	平成28年9月24日(土)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校体育館
	実施目的	特別支援学校に通う児童生徒のことを理解してもらうため地域への啓発, 交流, 連携を目的に開催する。
	実施内容	生徒が授業で作った作品を自ら販売, また喫茶店コーナーの企画運営, 注文, 会計も担当。それぞれのコーナーで買い物やゲームなどを通して学生ボランティアや来場した方々と交流する。
	実施方法	QRコードを入れたチラシ, ポスターを制作し, 仙台圏全ての小・中学校, 附属校園, 市内の主要施設, 支援機関, 地下鉄の駅などに配布する。さらに大学のFacebookや地元の新聞にも紹介記事を掲載する。ふようまつり全体の準備を保護者が行い, 一部の運営を学生ボランティアに依頼する。
参加人数	450名	

報告事項	内容	<p>○事業委員会の保護者20名が中心となり提供品コーナー, 子どもコーナー, お気持ちコーナー, 飲み物販売コーナーの企画・運営を行った。また新たな企画として本校校長と研究室の学生によるポップコーン・わたあめコーナー, 看護師の資格をもつ保護者による健康相談コーナー, クワガタコーナーを設置した。</p> <p>○高等部の総合サービス業班の生徒が喫茶店「ウィッシュ カフェ」を企画・運営した。</p> <p>○事業所の販売は前年度卒業生の就労先を優先して選定し, 体育館内に7か所, 移動販売車(カレー, アイス)2台, 合計9か所の出店となった。</p> <p>○ボランティアとして大学生17名, 附属中学生12名の参加があった。</p> <p>○中学部, 高等部の生徒が作業学習で制作した製品を販売するコーナーを設置した。</p> <p>○各学部の学習の様子をパネルにまとめ, 紹介した。</p>
	結果	<p>当日の来校者数が312名と過去最高を記録した。チラシにQRコードを入れたこと, 大学のFacebookに載せたこと, 開業したばかりの地下鉄の駅にポスターを貼ったこと, 地元の新聞の地域情報コーナーに掲載したことなどで開催案内が幅広くいきわたった成果だと思われる。在校生の家族, 卒業生とその家族, 附属校園のPTAのほか, 地域の方々, 支援機関や事業所の方々就来場し, 例年以上の盛り上がりを見せた。事業所はパン, 弁当, きのこと, 生花などのほか, 今年度は焼き立てのぎょうざの販売を行い, すべて完売となった。移動販売車のカレー, アイスはともに大好評だった。生徒の製品も好評で, すべて完売となった。また, 校長によるポップコーンコーナーは10種類から味を選ぶことができるとあって大変人気があり, 人が途切れることがなかった。わたあめは赤, 青, レインボーなどカラフルだったため, 来場者の目と舌を楽しませていた。校長手作りのテーブルと椅子も用意していたので, 休憩場所としてもにぎわっていた。</p>
	所感	<p>天候に恵まれたこともあり, 来場者数が大幅にアップした。支援機関を利用している他校の児童生徒と職員, 成人した卒業生とヘルパー, 附属校園に通う児童生徒とその保護者などこれまであまり来場したことのない方々の姿が多数見受けられた。地道な広報活動が実った結果だと思う。特に新しいコーナーである校長のポップコーン・わたあめコーナーは大盛況で, 来場した方々を楽しませていた。また, 看護師の資格をもつ本校の保護者による健康相談コーナーでは血圧や脈を測った。想定していた年配の方以外にも目新しいコーナーとして気軽に訪れる方が多かったのが印象に残っている。何より児童生徒が楽しく遊んだり, 熱心に販売活動に取り組んだりする姿に成長を感じることができた。</p>

添付書類

写真



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成29年2月3日(金)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
学年	高等部1年, 2年

ふようまつりの思い出

高等部2年・女子生徒

私は、陶芸班の販売のために体育館に行きました。体育館の中は、ふようまつりに来たお客さんでいっぱいでした。私は、きんちょうしました。

陶芸班では、皿やコップ、おちょこを作りました。私は、むずかしい作業でしたが、がんばりました。何日もみんなで最後まで作りました。あきらめずに作ったみんなは、すごいなと思いました。

ふようまつりでは、陶芸班にお客さんがたくさんきました。私は、あせってしまいました。とてもいそがしかったです。だんだん疲れてきましたが、がんばりました。

たくさん販売することができて、楽しい思い出になりました。心にのこる、ふようまつりになりました。

これからも、陶芸班の作業を最後まであきらめないでがんばります。

ふようまつりの思い出

高等部1年・男子生徒

僕は、木工班でペン立てを作りました。木工室には、いろいろな機械があって、一つずつ使い方を練習しました。最初は、先生や先輩に教えてもらって、やり方を覚えました。だんだん一人でもできるようになって、うれしくなりました。ルーターという機械を使って、木にみぞを入れました。ベルトサンダーという機械を使って、木にやすりをかけました。木がつるつるになったかなとさわって確かめました。暑くて、汗をたくさんかいたけど、タオルでふいて、毎日がんばりました。組み立てと飾りつけは、先輩と協力してできました。ボンドのふき取りをていねいにしました。

ふようまつりでは、お客さんがたくさん来ました。僕は、ペン立てを持って、大きな声でお客さんを呼びました。たくさん売れて、とても良かったです。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成29年2月3日（金）
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校

<全体について>

- ・当日は天候にも恵まれ、これまで最高となる312名の来場者数となりました。ポスター、チラシにはQRコードを掲載し支援機関や仙台圏の小・中学校などに配布しました。大学のFacebookにも掲載し、自然豊かな中にある学校の外観や過去のふようまつりの様子などを閲覧できるようにしました。
- ・今回初めてポスターを、地下鉄の各駅3箇所に掲載した効果もあったと思いました。
- ・今年度、新しく血圧コーナーを設け来場したお客様を対象に看護師の資格を持った保護者が、無料で血圧を測定しアドバイスをしたことも大盛況の要因となったと思いました。
- ・本校の校長企画のポップコーン・わたあめ販売も今年度初の企画でした。宮教大、他大学のボランティア、附属中学校の生徒ボランティアも携わってくださり、手作りでポスターや価格表を作ったりするなど親睦を図ることができました。大人から子どもまで楽しめた企画だったと思います。
- ・保護者が障害者施設へチラシを配布したことで、車椅子の支援機関の皆さんが来校してくださり、楽しんでいただけました。

<事業所コーナー>

- ・卒業生が実際に販売にきてくれて、在校生も励みになりました。また、初めて参加された保護者の方は、事業所でどのような物が販売されているのか知ることができました。
- ・今回、体育館の外に2事業所より移動販売車で来校いただき、アイスクリーム販売とカレー販売をしていただきました。外に休憩コーナーも設けたので、とても和やかな場となっていました。
- ・各事業所の出店品が多種多様で、試食などもあり、質問をしながら購入している様子が見られました。

<提供品・お気持ちコーナー>

- ・お父さん方の協力でくわがたコーナーを設置し、格安で販売しました。購入している子どもたちの姿がとてもうれしそうでした。
- ・手作りのポスターやレイアウトなどを工夫し、ほとんどの物が完売となりました。楽しく販売することができて良かったです。
- ・附属中ボランティアさんが元気よく呼び込みをしてくれて、活気があって良かったです。

<喫茶コーナー>

- ・生徒たちがコーヒー豆を挽いての販売では、注文から会計までこなし、学習の成果が発揮される機会となりました。
- ・生徒たちがとても丁寧に接客を行っている姿勢が印象的でした。
- ・休憩コーナーも多数配置し、ゆっくり休める場所となりました。また、テーブルの上には小さな観葉植物を置くなど工夫していました。

<子供コーナー>

- ・ゲームや飾りつけなどは手作りで、華やかでワンダーランドのような雰囲気になり、子どもだけではなく、大人もワクワクするような感じに仕上がりました。
- ・各コーナーの大学生・附属中ボランティアさんの対応がよく、スムーズに取り組むことができました。
- ・外部からのお子さんも多数訪れ、ゲームなどを楽しめたようです。